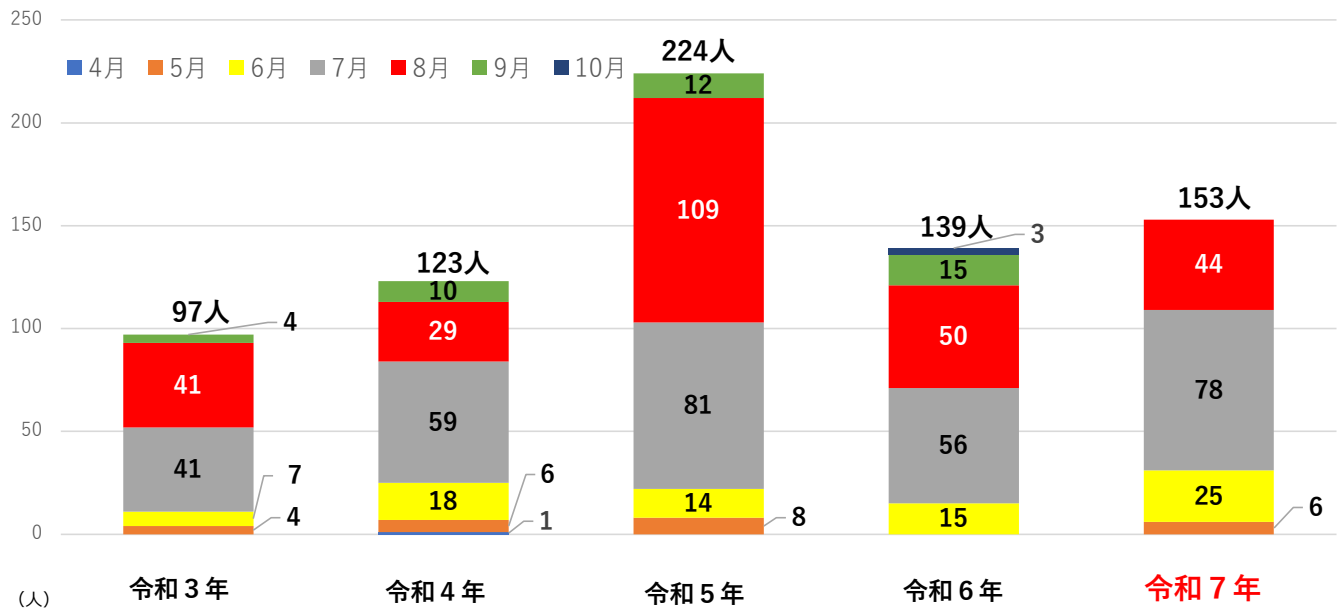


令和7年中(4月1日～8月31日) 大崎管内における熱中症搬送状況について

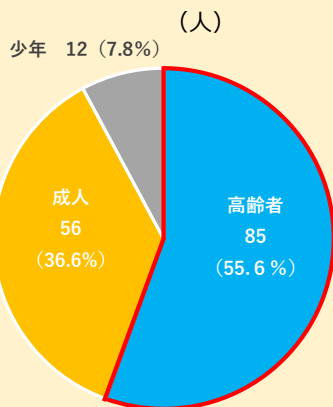
過去5年 熱中症による救急搬送状況



6月中の搬送者数は過去最多となり、7月末時点で過去最多ペースで推移していましたが、8月中の搬送者数が令和5・6年と比較し減少したことで、8月末時点では過去2番目に多いペースで推移しています。
8月中の搬送者数が減少した要因は、連日30度を超える日が続きましたが猛暑日(35度以上)は無く、また早い梅雨明けにより暑熱順化が進んだものと推測されます。
今後も30度超えの暑さが予想されるため引き続き厳重な注意が必要です。

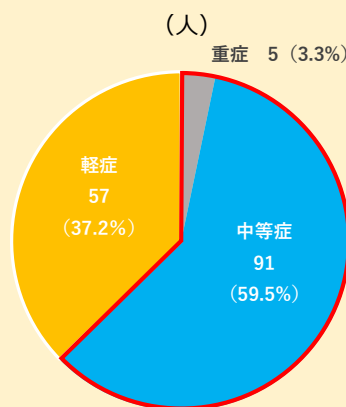
熱中症で救急搬送された153人の内訳

年齢区分別 (構成比)



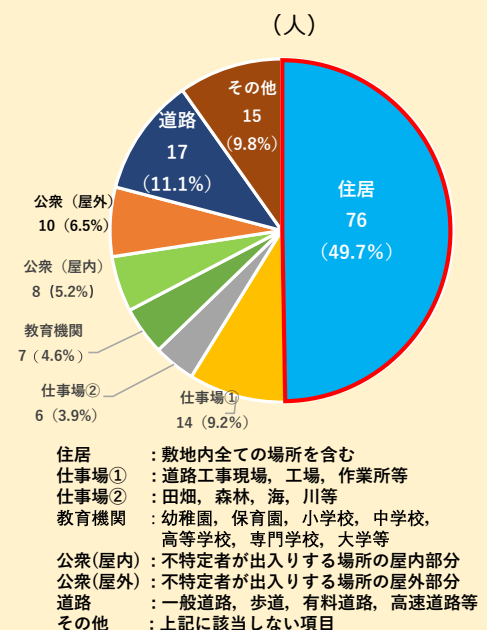
乳幼児：生後28日以上満7歳未満
少年：満7歳以上満18歳未満
成人：満18歳以上満65歳未満
高齢者：満65歳以上

初診時における傷病程度別 (構成比)



軽症：入院加療を要しない程度(外来診療)
中等症：重症又は軽症以外の程度(入院加療)
重症：3週間以上の入院加療を必要とする程度
死亡：初診時において死亡が確認されたもの

発生場所別 (構成比)



- ・年齢区分別では高齢者が約6割を占めており、傷病程度別では入院加療が必要な中等症以上の方が3分の2を占めています。
- ・発生場所別では、住居(敷地内全ての場所を含む)が約半数を占めています。
- ・特に高齢者の熱中症対策として、エアコンを上手に使うこと、こまめな水分補給また家族や介護の方など周囲の人が見守りや声がけをすることが大切です。